

「描かれた紫式部と源氏物語」

注目ポイント

- ◆ 現在、ドラマ放送などを通じて注目を集めている『源氏物語』と紫式部の世界を、江戸時代に描かれた絵画を通して紹介する企画展です。
- ◆ 第1部「紫式部と宮廷社会に生きた人々」では、紫式部と、同時代の宮廷貴族社会に活躍した人々の姿やエピソードを描いた作品を紹介。
- ◆ 第2部「住吉派の描く源氏絵の世界」では、徳島藩御用絵師である渡辺広輝や守住貫魚をはじめ、幕府御用絵師・住吉家に連なる画人たちが描いた『源氏物語』の名場面＝源氏絵を展示します。
- ◆ 企画展最終日には、平安時代の宮廷社会が生み出した 雅やかで華麗な服飾文化を紹介する関連イベント「平安装束絵巻」も開催します。

会期

令和6年8月24日(土)～10月6日(日) 9:30～17:00(入館16:30まで)

徳島市立徳島城博物館 企画展の開催

<市長記者会見資料>

令和6年8月6日

教育委員会社会教育課

徳島城博物館

展覧会の詳細

- 1 会期 令和6年8月24日(土) ~ 10月6日(日)
午前9時30分 ~ 午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 2 休館日 毎週月曜日(9月16日、23日は開館)、9月17日(火)、24日(火)
- 3 会場 徳島城博物館 企画展示室
- 4 出品数 35点
- 5 入館料 大人300円
高校・大学生200円
中学生以下無料
(※20名以上の団体は2割引)



徳島城博物館

・紫式部石山寺観月図

作者は幕府御用絵師・住吉広尚の門弟である白波瀬汶江。石山寺に参籠していた紫式部が琵琶湖に映る月を見て『源氏物語』の構想を得たとの伝承が描かれています。



・ 藤原道長図（紫式部日記 女郎花図）

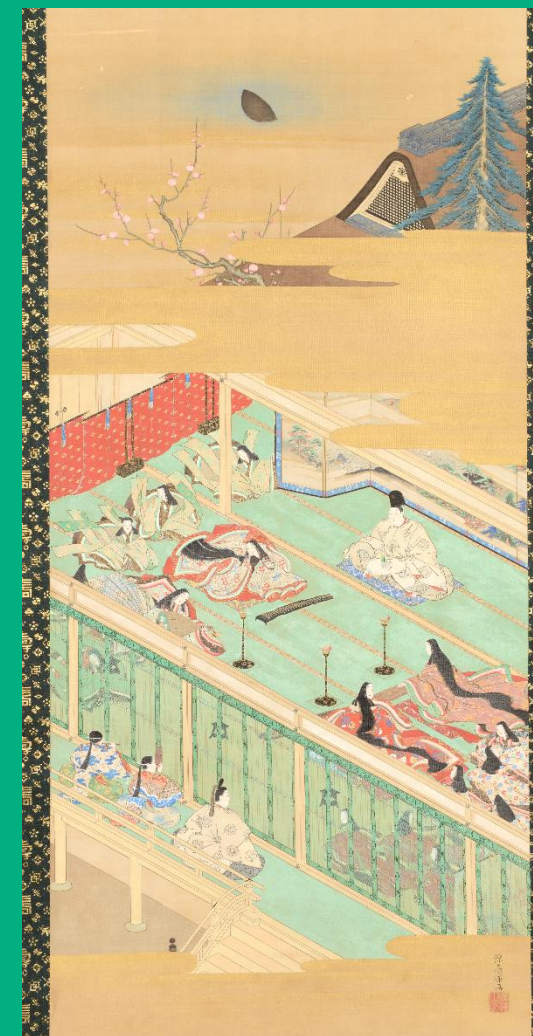
作者は幕末・明治の歴史画に多大な影響を及ぼした画家・菊池容斎。

『紫式部日記』等取材した、藤原道長と紫式部が、女郎花をめぐる和歌を詠み交わした逸話を描いた、とても珍しい作品です。



・源氏物語 若菜下図 (松久伊津氏 寄贈)

作者は江戸時代後期の徳島藩御用絵師である渡辺広輝。
春の夜、光源氏をめぐる4人の女性が集い、華やかな演奏を行う「女楽」の場面を描いています。



徳島市立徳島城博物館 企画展の開催

<市長記者会見資料>

令和6年8月6日

教育委員会社会教育課

徳島城博物館

関連イベント

平安装束絵巻

10月6日(日) 14:00~15:00

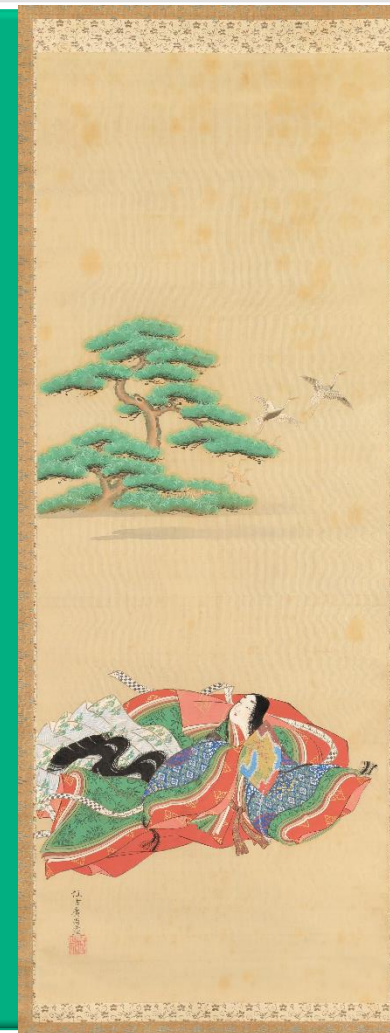
展示作品に描かれた束帯や直衣、十二単や小袷などを、公募による市民モデルに装着していただき、華麗なる日本の装束の美をご覧ください。

会場：徳島城博物館ラウンジ

展示解説

9月1日(日)、9月23日(祝) 13:30~14:30

講師：徳島城博物館 学芸員



画像…「伊勢大輔図」住吉尚筆

※いずれのイベントも参加費は無料、ただし入館料が必要です。

問い合わせ先 徳島城博物館(電話:088-656-2525)